無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集(ム05)

目　的　無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

成　果　1．韓国文化財庁国立無形遺産院との研究交流では、2019(令和元) 年7月1日～19日に前原恵美・無形文化財研究室長を韓国国立無形遺産院に派遣し、同院の研究員と共に無形文化遺産、特に伝統音楽の楽器製作技術の継承に関する共同調査を実施した。本調査の成果は韓国国立無形遺産院における成果発表会で発表した（7月18日)。また9月17日～10月4日に、韓国国立無形遺産院の姜敬惠学芸研究士を受け入れ、民俗技術、特に伝統農耕技術に関する共同調査を静岡県静岡市井川及び宮崎県椎葉村等で実施した。その成果は成果発表会で発表された(10月4日)。

韓国国立無形遺産院との交流事業における焼畑農耕技術の調査の様子(宮崎県椎葉村)

2．無形文化遺産の国際的な動向に関する調査研究では、ユネスコ無形文化遺産条約第14回政府間委員会（開催国コロンビア：12月9日～14日）に2名のスタッフ（石村・二神）を派遣し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集を行うとともに、日本国政府代表団に専門的な助言を行った。なお本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第14号において報告した。また、ユネスコ無形文化遺産保護条約に関連した用語を解説した『無形文化遺産用語集』を2020(令和2) 年3月に刊行した。

3．アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI) への協力では、国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究―教育を題材として」(於東京国立博物館：2019 (令和元) 年11月28日～29日) に1名のスタッフ (石村) が出席した。また本研究所との共催事業として開催された国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて」(於東京文化財研究所：12月17日～18日) の運営に全面的に協力した。

報　告・二神葉子：「無形文化遺産の保護に関する第14回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』14　pp.1-22　20.3

発　表・石村智：国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究―教育を題材として」パネリスト　19.11.28-29

・石村智：国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて」Session 1, 2 (司会)、Session 3 (パネリスト)　19.12.17-18

刊行物・『無形文化遺産用語集』　20.3

研究組織　○石村智、前原恵美、半戸文、金昭賢（以上、無形文化遺産部)、二神葉子（文化財情報資料部)、宮田繁幸、松山直子、神野知恵（以上、客員研究員）

アジア諸国等文化遺産保存修復協力〔コ02〕

目　的

東南アジア、西アジア及びその周辺地域における文化遺産の保存活用に関する調査研究の実施並びに当該地域で行われる文化遺産の保存修復事業への協力を通じて、我が国が有する文化遺産保護に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成　果

1．カンボジア　アンコール・タネイ寺院遺跡保存整備事業に対する支援等

ア）東門の修復に向けた散乱石材の調査及び排水経路の検討（2019（令和元）年5月19日～6月29日）、修復工事の実施に関するアンコール・シエムレアプ地域保存整備機構との事前協議及び準備作業（2019（令和元）年8月10日～16日）、東門の修復工事の実施、屋根及び壁体の解体、3Dスキャニングによる現状記録（2019（令和元）年9月7日～11月15日）、東門の基礎構造の調査、基礎盛土の土質試験（2019（令和元）年12月1日～21日）、基礎外装の解体、基礎盛土の土質試験及び基礎石材の強度試験（2020（令和2）年2月25日～3月19日）

イ）アンコール遺跡及びプレアヴィヒア寺院遺跡保存国際調整委員会技術会合への参加及び事業報告（2019（令和元）年6月11日～12日、9月18日、12月10日～11日）

ウ）国際研究会・シンポジウム「メコンがつなぐ文化多様性－東南アジア文化遺産研究の現在－」（早稲田大学文化財総合調査研究所）における報告（2020（令和2）年1月22日～23日）

2．イラン　文化遺産手工芸観光庁及び文化遺産観光研究所との協力事業

博物館の環境管理に関する専門家研修の実施（2019（令和元）年11月25日～29日）

3．アルメニア　エチミアジン大聖堂博物館及び歴史文化遺産科学研究センターとの協力事業

染織文化遺産に関する保存修復研修の実施（2019（令和元）年10月7日～17日）

論　文

発　表

- VAR Elif Berna: "Towards the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple: Restoration of the East Gate" Mekong cultural diversity beyond borders - Proceedings for the International Seminar & Symposium on Southeast Asian cultural heritage studies today -, Institute for Cultural Heritage, Waseda University, 20.3
- 間舎裕生ほか：「アルメニア共和国における染織文化財保護の国際協力」『文化財保存修復学会誌』63　20.3
- MARTINEZ Alejandro et al.: "Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei Temple: Conservation of the East Gate" The 32nd Technical Session of ICC-Angkor 19.6.11
- VAR Elif Berna et al.: "Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei: Restoration Works on the East Gate" The 33rd Technical Session of ICC-Angkor 19.12.10

刊行物

- 友田正彦「東南アジアにおける東京文化財研究所の文化遺産国際協力」国際研究会・シンポジウム「メコンがつなぐ文化多様性 －東南アジア文化遺産研究の現在－」　20.1.24
- 『アルメニアにおける染織文化遺産保存修復ワークショップ2017-2019事業報告』東京文化財研究所　19.12.1
- "Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor-Progress Report of 2019" APSARA/TNRICP, 20.3
- 『大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係』東京文化財研究所　20.3
- 『アジア諸国等文化遺産保存修復協力　令和元年度成果報告書』東京文化財研究所　20.3

研究組織

○金井健、友田正彦、安倍雅史、マルティネス・アレハンドロ（9月まで）、間舎裕生、淺田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ（8月から）、岡崎未来（以上、文化遺産国際協力センター）、佐野千絵、小峰幸夫（以上、保存科学研究センター）、石井美恵、山田大樹（以上、客員研究員）、呂俊民（前客員研究員）、大石岳史、桑野玲子、大坪正英（以上、東京大学）

保存修復技術の国際的応用に関する研究〔コ03〕

目　的　文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、それらへの対応には他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。そこで、本プロジェクトでは文化遺産の現地における持続可能な保存・修復・活用のための維持管理を目標に、各国における問題を分析し、現地に即した修復技法、材料を研究するとともに、当研究所を中心に諸外国の専門家ネットワークを構築し、意見交換、技術移転をすることで、現地担当者の育成を図る。

成　果　1．トルコ・カッパドキアにおける壁画の保存管理に関する研修の実施（2019（令和元）年6月8日～18日）

2．ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院外壁及び壁画の保存に向けた調査と修復方法の研究

ア）煉瓦造寺院（Me-taw-ya寺院）の外壁調査と保存修復方法の研究（2019（令和元）年7月10日～30日）

イ）壁画（Lokahteikpan寺院）の保存修復に係る人材育成事業（2019（令和元）年7月10日～30日）

ウ）考古国立博物館局バガン支局職員を対象にしたワークショップ（2019（令和元）年7月15日～27日）

◆ワークショップテーマ

Ａ：煉瓦造寺院外壁の保存修復

Ｂ：地震被災箇所の応急処置

Ｃ：壁画保存修復

3．ミャンマー宗教文化省との技術協力内容に関する合同会議（2020（令和2）年1月21日～7月24日）

4．パガン王朝期における壁画の図像に関する民俗学的調査（2019（令和元）年7月11日～16日）（2020（令和2）年1月16日～24日）

5．ミャンマー・バガン遺跡における壁画の虫害調査（2020（令和2）年1月27日～30日）

バガン支局若手職員を対象にしたワークショップ

発　表・Yoshifumi Maekawa：“The field course - Challenges and Issues to Wall Painting Conservation” Cappadocia University, Turky 19.6.15

・鴫原由美、前川佳文　「ミャンマー・バガン考古遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究」―パガン王朝と復興期における壁画の比較研究―」　文化財保存修復学会第41回大会 19.6.22

刊行物・Yoshifumi Maekawa, Daniela Murphy：“Current and future project reports of the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties” Bagan branch of the Department of Archaeology, National Museum and Library, Myanmar 20.1.23

・Capacity Building Report -Mission N º5- ; study, risk assessment and intervention proposal of the wall paintings decorating the southern wall of Lokahteikpan,　令和元年度成果報告書 東京文化財研究所　20.3

研究組織　○加藤雅人、前川佳文、牛窪彩絢（以上、文化遺産国際協力センター）、小峰幸夫（保存科学研究センター）

在外日本古美術品保存修復協力事業〔コ04〕

目　　的　日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、日本の文化財の保存修復専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、本事業では海外で所蔵されている日本文化財のうち絵画作品及び漆工芸品の保存修復に関する助言等の協力を行う。また本格的な修復が必要な作品に関しては日本で修復して返還する。さらに、特殊な条件にある海外作品に関して、その保存修復方法の研究を行い、結果を公開、共有する。

成　　果　1．作品修復

ア）インディアナポリス美術館（アメリカ）所蔵　鈴木其一筆「八橋図・檜図」6曲1双屏風

イ）インディアナポリス美術館（アメリカ）所蔵　曾我蕭白筆「太公望図・林和靖図」掛軸2幅

ウ）インディアナポリス美術館（アメリカ）所蔵　雲谷等顔筆「煙寺晩鐘図・平沙落雁図」掛軸2幅

以上3件、修復完了、返還済み

エ）ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア（オーストラリア）所蔵　「親鸞聖人絵伝」、掛軸4幅、修復中

2．作品調査

モントリオール美術館（カナダ）、2019（令和元）年6月10日～14日

3．作品修復のための材料技法に関する基礎研究、調査

4．成果公開

国際集会「日本絵画の修復」（International Forum “Restoration of Japanese Painting”）を開催し、プロジェクト紹介及び修復事例を講演、展示した。（「国際研修コ05」及び受託「ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業」との共同事業）

講演：2019（令和元）年7月29日

展示：同年7月29日～8月25日

絵画作品修復

発　　表・小田桃子ほか：「ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア所蔵　佐々木泉玄筆『般若図』（絹本着色　掛軸装）　修復事例報告」文化財保存修復学会第41回大会　19.6.22

・TOMODA Masahiko: “The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas”, International Forum “Restoration of Japanese Painting”, Manggha Museum of Japanese Art and Technology, Krakow (Poland), 19.7.29

刊行物・『平成27年度在外日本古美術品保存修復協力事業　般若図　No.2015-5　修復報告』　東京文化財研究所　20.1

研究組織　○加藤雅人、友田正彦、小田桃子、堀まなみ、片渕奈美香（以上、文化遺産国際協力センター）、江村知子（文化財情報資料部）、三本松俊徳、小田切真梨、廣原大樹（以上、研究支援推進部）、大河原典子、杉山恵助（以上、客員研究員）

国際研修(コ05)

目　的　近年日本の材料や道具、保存修復の理念が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に直接日本の技術や知識を伝える場が求められている。そこで、国内外において国際及び各国の機関と共催、あるいは協力を得て、研修等を開催することで、保存修復関係者への技術移転、情報共有を行う。

成　果　1．国際研修「日本絵画の修復」(International Forum "Restoration of Japanese Painting")
(「在外日本古美術品保存修復協力事業コ04」及び受託「ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業」との共同事業)
期日：2019(令和元)年7月29日～30日
主催：東京文化財研究所、日本美術技術博物館Manggha、文化庁
会場：日本美術技術博物館Manggha(ポーランド・クラクフ)

2．ワークショップ「染織品の保存と修復(Workshops on the Conservation of the Japanese Textiles)」
主催：東京文化財研究所、国立台湾師範大学　会場：国立台湾師範大学(台湾・台北)
ア)基礎編「日本の染織品文化財」
期日：2019(令和元)年8月14日～16日
参加者：11名
イ)応用編「日本の染織品の修復」
期日：2019(令和元)年8月19日～23日
参加者：6名

3．国際研修「紙の保存と修復(International Course on Conservation of Japanese Paper)」
期日：2019(令和元)年9月9日～27日
主催：東京文化財研究所、ICCROM
会場：東京文化財研究所他国内
参加者：10名

4．国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復(Curso Internacional de Conservación de Papel en América Latina)」
期日：2019(令和元)年10月30日～11月13日
主催：東京文化財研究所、ICCROM、INAH
会場：CNCPC-INAH(メキシコ・メキシコシティ)
参加者：9名

5．ワークショップ「漆工品の保存と修復(Workshop on Conservation and Restoration of Urushi Objects)」
期日：2019(令和元)年12月2日～6日
主催：東京文化財研究所
会場：ケルン市博物館東洋美術館(ドイツ・ケルン)
参加者：6名

刊行物・『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2019』東京文化財研究所　20.3
・『ワークショップ「染織品の保存と修復」2019』東京文化財研究所　20.3
・『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2019』東京文化財研究所　20.3

研究組織　○加藤雅人、友田正彦、後藤里架、五木田まきは(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存科学研究センター)、菊池理予(無形文化遺産部)、三本松俊徳、小田切真梨、石川絵梨子(以上、研究支援推進部)、石井美恵、杉山恵助(以上、客員研究員)